

総合理工学研究院

I	研究水準	研究 16-2
II	質の向上度	研究 16-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均論文数が 5.8 件であり、英文の論文が 75%（平成 18 年度）を占めている。講演は教員一名当たり平均 10.4 回であり、学会等においても様々な役割を果たしている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数は、過去 4 年の年平均で 54 件、金額にして年平均約 2 億円である。受託研究は、年平均で 17 件（1 億 887 万円）、共同研究は 34 件（8,012 万円）となっているなどの相応な成果である。

以上の点について、総合理工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、総合理工学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、物質、エネルギー、環境及びその融合領域において高い評価の研究成果を上げている。卓越した研究成果として、金属及びセラミックス材料の力学的特性について、とりわけ高温強度と粒界破壊に関する一連の理論的、実験的研究があり、先導的な基礎理論として国際的にも高く評価されている。社会、経済、文化面では、卓越した研究業績は見られなかったものの、都市建築環境に関する一連の研究活動は、建築環境工学の進展に貢献している。これらの状況等は、相応の成果である。

以上の点について、総合理工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、総合理工学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

